

知らしむべし

古山恵一郎

正月の二日に親父の十七回忌をやった。姉達は戦前から戦中にかけての生まれなので、「昭和11年に吉林に居た頃、満人から狐をもらって、」といった話しがいくつか出てきた。小学生であった二番目の姉が「おまえのえりまきにしてやるから。」と言われていた狐は、そのうち逃げ出してしまったようだ。昭和12年に親父は通化へ転勤となり、山奥、というより抗日武装戦線の根拠地である赴任先へは子供連れ、と言う訳にもいかず、姉達は在所の祖父母のもとに送り返されてきた。乳飲み子である四番目の姉には通化の記憶はない。今のうちに話を聞いて纏めておけば「我家から見た近代日本」が少しは解るはずだ。識者の取りまとめた立派な本よりもこちらのほうが実感がもてる。正月の三日にはボブが年始廻りに来て、シアトルで買った "Snow Falling On Cedars" という小説本を貰った。低い雲が垂れ込め、雪混じりの海風が吹き付ける1954年12月のシアトル沖、ペインブリッジ島の裁判所から物語は始まっている。地元の漁師の水死について、日系の若者に殺人容疑がかけられているのである。漁業という運命共同体的産業に従事する狭い村には、どこにでも「知ってはならないこと」があるのが通例であろう。私が育った浜名湖畔の漁村は、「殺人事件があれば犯人がその日のうちに自首して来るか、迷宮入りかどちらかだ。」と称されていた。"Snow Falling On Cedars" では、そうした村の不文律である「知ってはならないこと」から、島にかけられた呪いの根源が、第二次大戦中の日系漁民追放に端を発していることが明らかにされて行く、と裏表紙に書かれているので、布団のなかで少しづつ読もうと思っ

ている。議会決議、条約締結といった類の事柄を積み重ねた歴史よりも、こうした歴史のほうが実感がもてる。

ばらばらと人間をこぼしながら最後のヘリコプターがサイゴンのアメリカ大使館の屋上を飛び立ったときから始まった「終わりの始まり」は、1995年には一層スピードを早めたように感じられる。ミッキーマウスの笑顔みたいな「アメリカによる近代化」が、地球全てを覆い尽くすことが出来ないことがはっきりしたにもかかわらず、それに代わる未来の姿は未だ見えない。「家相」に振り回されてふと気付いたのはひよっとすると朱子学の世界が西洋近代を葬る究極の管理社会かもしれない、ということだった。少なくともシンガポールはそうして驚異の経済的成長を享受しているらしい。それに比べて我国は、関西大震災に続いて近々駿河湾地震でもあれば、関東大震災後の社会不安を再現しようという、脆弱さを明らかにした一年であった。国民にも国家にも「歴史を担っている」自覚が無いのだ。物事の本質を考えず、目先の事に囚われて、「成り行き」の積み重ねを未来の代用品にしたがるのが我々の性なのかもしれない。「情報とは何か」を考えることなく、インターネットに群がる人々にしてしかりであろう。「君子仁者也」から導き出される「知らしむべからず、依らしむべし」という情報管理がもはや力を持たないばかりか、危険窮まりないことは、関西大震災のテレビ中継に見入る閣僚会議で始まり、原子炉事故のビデオ採み消しと、その暴露に終わった1995年でかなりはっきりしてきた。「原則公開」に耐えない立法、行政は亡国の道であったことを思い出してもよかろう。情報通信技術の発展で世界の情報量は数年のうちにそれまでの100倍にもなるというではないか。このままでは我国ばかりが世界の流れから取り残されそうである。

(こやまけい ちろう / ASK Ink. / 浜松)



1、2、3・・・366

永田温子

1日の浦河大黒座には「マディソン郡の橋」がかかっていました。メルル・ストリープが農場の自宅きわの自家菜園を耕す、そのあとキンケイドをもてなすためににんじんやねぎを収穫する、そんな場

面場面が、この映画を支えていると思いました。2日目は、浦河老舗コーヒー店 core で、やきものの M 氏と 3 人デート。去年と同じ日、去年と同じ左隅の椅子。もの作りの秘密を明かすように差し出された今年の本の頁には、セザンヌのアトリエ写真。ものを作るときの姿勢は多様だけれど、材料から本質をとり出して形を作っていくとき、外側の作業よりむしろ内面で組み立てられて行くものの方がより面白いといったようなことを改めて考えました。勿論外と内とは連動しているのですけれど。表面がきれいかどうかということに流されないで、確かな実体を作り出していけるかどうかということ。わが家の羊だって大きな元種ですね。3日は私の誕生日、ゆっくりと今年もすべり出しました。4日目は山羊の雄「おい」をお隣りから連れ戻しに。うちの Bebe の 3 倍はあろうかと思われる「おい」は、軽々と入り口の柵に前脚を引っかけて越えてしまうので、お隣りの S 家の山羊邸を 2、3 日の不在にお借りしたのです。この山羊邸は、上を上を目指す山羊のために階段状に建てられた小屋で、ほかの地に例を見ないものでしょう。

3 週間周期で訪れる雌山羊の発情が、小別沢 2、銭函 1 の 3 頭ともにもう来ないことを確かめたので、おいしい山羊チーズの香りをふりまいた「おい」を新十津川の A 氏にお返しに行きます。昨 12 月、都合 3 軒の雌山羊の種付けのために快く貸していただいたのですが、この新十津川への道もまた、大小の水の流れが自然のままの形をたくさん作りだして、春なら下車してしまいたい、とても楽しいドライブでした。車窓からは変化に富んだ景色、車内は山羊チーズの香りで、ズンズン走ること約 2 時間。100m 先から臭うとか何とか言われて、「くさい！」とされる雄山羊ですが、ナンコトハナイ、かいでみればこれは山羊チーズの元の匂いなのでした。芳醇。お腹一杯になる匂いです。今夜咲くからと、月下美人パーティーに夏のある真夜中に招ばれてかいだ、その花の香りに似ています（?!）。部屋中に満ち満ちた濃厚な甘い香り。一度かげば、ずっと思い出となってしみつくような香りという意味で、雄山羊の匂い = 月下美人の香りと言いたいです。

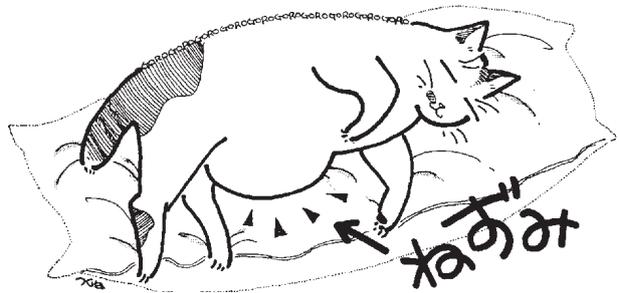
もう、そこら中が緑におおわれる 5 月、それぞれの家で、メリーとちゃめと Bebe に数頭の子山羊が誕生するはずです。おっぱいも、きっと、ジャブジャブでしょう。頭の中の私のチーズもやっとな現実にものへ・・・。

(ながたはるこ / 小別沢・山羊²クラブ / 札幌)

街でひつじと暮らすには・2

片桐つくね

街でねこは飼えません。日本は穀物の国。鼠から大切な財産を守るための大天敵、鼠を捕ることと、ヒトになれることだけで日本のねこは生き延びてきました。でも、今、普通の街の住宅では、うちの中に穀物を貯蔵しておくことはないし、鼠だって近寄れません。街中の鼠は専門の駆除会社が見えないところで始末をつけてくれています。そこら（ぜえんぶヒトの土地）でおしっこやうんちを埋め、恋の季節には屋根の上で喧嘩をし、許しも得ずに塀の上を我がもの顔で歩くねこは、自由奔放な守り神からただの邪魔者に成り下がったので



す。街では犬は飼えません。日本犬の性格と形をみてわかるとおり、犬は森で生き抜く際の重要な相棒でした。今、犬がいなければ生活が出来ないような森は壊滅状態で、まして森で犬を使える人は年々減っているでしょう。犬を家族として飼う歴史が浅い日本の街では、しつけが出来ないまま、繋ぎっぱなしにしたり、吠えさせるだけ吠えさせて、マンション中に哀しい声を響かせたり、その「叫び声」で隣家の人を自殺させたり、しまいには飼いきれなくなって自分以外の人の手に委ねて殺してもらったり。

街は、大きな道が交わる場所。そこにいろいろなものが集まり、何もかもが棲んで、余裕と緩衝力で全てを飲み込んでいくエネルギーに溢れるのが、きっと街です。それがいつのまにか、袋小路になってしまった。中にいるのはすけすけの幽霊の集団で、どこにも自分がないのに、自分以外を呪っている。自分に属さないことは我慢がならないし、恐くて排除したい。犬もねこも木も草も、そして、自分がいらなくなった、ごみや、自分の役に立たない、人は、見えないところに捨ててしまっ、処分は誰かに任せればいい。見た目だけがきれいな、吸い込まれたら魂が抜かれるような

幽霊の棲むトコロです。そしてこれは、白状すれば、オノレ自身です。

街でひつじは飼えません。ひつじはもともと日本の街にはいない動物です。めえめえいうのとうんち・おしっこは、いくら叱りつけても我慢出来ないし、どどどどって逃げるくせに、羊の毛=ウールは決してふわふわではなくてべとべとで、そのうえ羊臭いし。でも、犬やねこや木やごみや自分と暮らせるように、ひつじと暮らすことが出来ます。そう、街でひつじと暮らすのだ。幽霊に負けないために。

#具体的なことを書こうと思ったのに...次はちゃんとします...ホントかな?

(かたぎりつくね / 獣医師 / 札幌)

光る羊 '96



9 / 14 (土) 15 (日) 16 (月・振替休日)

展覧会 + フォーラムのお知らせ

京都文化博物館 5F

京都市中京区高倉通三条上ル

主催、事務局：スピナッツ

〒603 京都市等持院南町 46

TEL.075-462-5966 FAX.075-461-2450

■展覧会応募要項

素材：羊毛 or 羊毛を基調に + 別素材、用途・形態不問、1点展示面積2m四方以内、一人3点以内、グループ制作可、出品料は1点につき¥5,000。

出品申込：4月末日まで / 申込書は事務局まで連絡を。

搬入：6月24日～29日着で事務局まで送ること。(直接持ち込み可)

「光る羊賞」あり!

■フォーラム(9/16午後)開催

■「光る羊 '96」記念はがき発売中!!

5枚1組 ¥500 (収益は開催費用の一部になります。)

申込 / 組数明記の上送料を加えて郵便振替で。

口座名：光る羊 '96 口座番号：01030-9-28600

送料 / 1組 ¥90、2～3組 ¥190、4～8組 ¥270、

9～16組 ¥390、17組以上 ¥700

■詳細は事務局まで。



隣んちの鳥日記 パート1

「はじめまして」

北尾久美子

はじめまして。昨年暮れ、大雪に追われるように、あわただしく引っ越して来ました。小別沢トンネルの手前、ちょっと離れてはいますが、永田さん家の隣に住んでいます。お隣のよしみでと原稿をたのまれてしまいました。

最初にこの地を見に来たのは、まだ夏草が茂っている頃でした。クロツグミやキビタキの美しい歌声を聞いて一ぺんに気に入ってしまい、あとは永田さんに相談するしかないと思い込んでいました。雪が降る前になんとか早く早くとせかして、ギリギリセーフで入居となりました。かつて住んでいた所は。国道ぞいの古い病院。向かいパチンコ屋、隣は養老の滝。昼も夜も車が絶えず、騒音と七色ネオンを枕に寝ていたのです。そして今度は、夜になると通る車もほとんどなく、山はしーんと静まり帰り、遠くできつねの声が聞こえてきます。あまり静かすぎると寝られないかと思ったけれど、日頃の疲れもたまっていたのかぐっすり眠っています。

目ざめると新雪をかぶった木々の間に、たくさんの鳥たちが姿を見せはじめています。夢にまで見た景色!! さっそく野鳥の会の友だちからプレゼントされたバードテーブルを設置。次の日から来る、来る、お客様がひきもきらず。つい朝から興奮して、双眼鏡を手に大さわぎをはじめます。なにせ私の仕事はバードカービング作り。木で精密な実物サイズの鳥を作り、博物館などに展示をしているのです。今までは、重いカメラや望遠鏡を首から下げて歩きまわり、やっとの思いで鳥の観察をしてきたのに、これからは目ざめるともう目の前に鳥達がいる。なんて感動的!! あっ!! ハギマシコの群れだ!! なんてちょっとめずらしい冬鳥を見つけようものなら、家のなかをバタバタと西の窓から北の窓へと走り回っています。あー、冬がこんなに楽しいなんて!! あの超ハードな雪かきも、はるか遠いゴミステーションも、重いリュックを背負った買い出しも気にならないゾー(?) いつもはズボラな私も1月1日、今日見た鳥リストなんてメモをとって、カケス、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、オオアカゲラ・・・と書いたりしています。いつまで続くかわかりませんが、これから少し記録でもとってみようかな。せっかくなので我家の家族も紹介します。おっと、ダンナ、相棒、つれあい・・・なんて呼んで欲しい? と聞くと、”建主様” とのたまう、太田ヒロ。じゃあ職業は? 音響屋、パーカショニスト、楽器

ミヤマカケス：ジェージュエーと少々耳ざわりな声で鳴くカラス科の鳥。本州のカケスと少し違いがあり、頭と目はキツネ色、翼に美しいブルーの線がある。集団で来るとひまわりの種がみるみるなくなっていく。



も作る、カレーも作る、ちょっとこだわる変なヤツ。(ナント引越の前日に足の親指を骨折、この一番忙しい時に、こんな山の中に来たというのに歩けない、車も運転できないなんて・・・トホホホ) 今や、にわかバードウォッチャーとなり、足を引きずりながら”アカゲラ発見”と得意顔になっている。そしてもうひとり、ではなく一匹、かつては”西町イエネコ”今や”ヒマフクロウ”(いつもヒマそうに寝てばかりいるが、後ろ姿がああシマフクロウに似る?!) 長い長い、つき合いの猫です。では皆様どうぞよろしく!! あっ永田さん、天窓がすっかりふさがってしまいました。それからコンセントと換気口が・・・。

(きたおくみこ／バードカービング作家
スタジオ ZERO 主宰／札幌)

あけましておめでとうございます 山城一郎

工房だよりは、街のお百姓達からの手紙となつてとどいております。田舎の百姓はどうも季節が締め切りみたいなもので、あわただしくやっていると・・・工房だよりがとどく。なんとって百姓だとあぐらかいてる私には気づかないことがたよりにのっかってやってきます。”こりゃ疲れてるわけにはいかなア”と気合いが入ったりします。これからもどうぞよろしく。美しい1966年でありますように。

以下『広告』です。

工房だより関係の皆さん、読者のみなさん、私もはなかなか出かけられないので(これ、実はおっくうだからなのですが)、どうぞ当地へもおこし下さい。山菜、野菜、きのこ・・・時々食べものあり。今は気持ちいい雪あり。そして温泉あり。お待ちしております。

(やましろいちろう／百姓／北海道有珠郡大滝村優徳)

新年おめでとうございます 松本茂

去年は本当に醜悪な一年でした。でも年頭からブルースカイ続きで単純にご機嫌でしたら、5日にはトンチンのギブアップで「橋竜」がニタニタ。ポマードチンピラが万一首相になったら「日本国」を退会すると宣言していた小生は、後数日で立ち往生です。難民の受け入れ先をお世話いただける方、お助けください。小生とて嘘をついたことも多少はありますし、無責任の謗りを免れない醜態もありましたが、「日本国」ほどではないと信じています。

天から地まで、嘘情報の氾濫している社会に現実対応をしていくのは、かなりつらいものです。歳のせいばかりではないでしょうが、だんだん堪え性がなくなってきました。年末年始のTVのひどさ、マスメディアの欺瞞性は日本人民の赤子精神の産物だとしても、少し度がすぎてませんか。

どこぞの国で始まった「情報ハイウェイ」には極東の島国からでも乗れるようです。嘘まみれのマスメディア、縦メディアはごみ箱にドラッグして、「個」と「個」の横メディアで等身大の情報を掴みたいもの。日本のハイウェイは目の玉料金がかかりますので、この「情報ハイウェイ」もなかなかネットワークが広がらないようですが、NTTやKDDも国際競争にさらされて、いつまでも旨い汁を吸ってられないでしょうから、有料道路に比べればまだましになるでしょう。

「工房だより」もニュースグループ・フォーラムを開いて情報交換するようになればなどと考えています。

みなさまのアクティブな一年を心から念願いたします。

(まつもとしげる／(株)生活美学社／小田原市)

あけましておめでとうございます 沢田正文

ニセコに引っ越してなんとも早い1年であった。大雪のなかの引越からスタートしてアトリエオープンまで、季節をながめる余裕もなくギャラリーの床張り、風除室、外周りの整備、今年の冬の薪割りetc。6月1日なんとかオープンにこぎつけた。幸い多くの方が駆け付けて来てくださり盛大なパーティになりました。

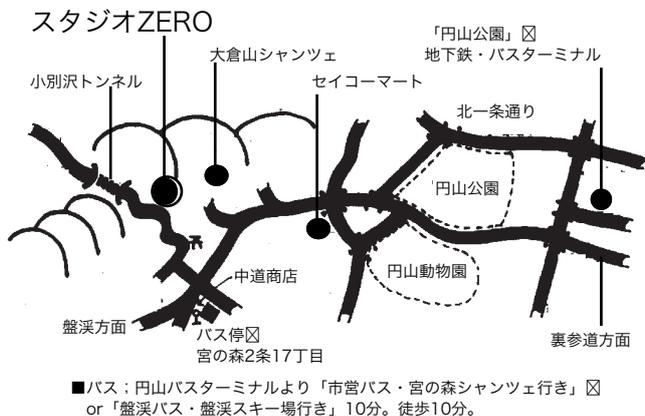
ニセコに来てそうそうニセコライオンズクラブから運動公園に寄贈するモニュメントの依頼があり、嬉しい悲鳴をあげての制作でした。その後もアトリエの壁に断熱材を入れたり、窓を付けたり、壁

にペンキを塗ったり、モルタルを塗ったりと忙しい1年でした。そんな中、ニセコの町の道路拡張に伴う町並み景観のための図面が舞い込んで来てビックリ。このまま進むととんでもない町になってしまう。”ちょっと待って、ちょっと待ってよ”と言うことで首をつっこんでしまったのが、ニセコ町並み景観委員！役場の会議室での討論会、慣れない会話にとまどいつつもとにかく穂別のような町にならないようにとがんばっています。今は3月に近代美術館で金属4人展をやるのでその制作に必死です。近美でKAGUを出品するのはいかがでしょうかと思ったのだが、すなおな気持ちで僕なりの作品は何だろうと考えてみると、やはり鉄KAGUが一番いいのではないかなと思い楽しんで制作に励んでいます。ニセコに住んでいるのに、まだスキーに一度も行ってない今日このごろです。

(さわだまさふみ/ラム工房/ニセコ)

1 / 27 (土) 6:00 ~ インド音楽のタベ

シタール：井上ケンジ タブラ：中川デン
スタジオZERO
札幌市中央区宮の森2条16丁目8-38



1 / 29 ~ #4 触覚会議「椅子展 - 素材の形」

出品/ガラス;伊坂重春、ステンレス;大坂克彦、木;熊谷文秀、紙;渋谷滋、布;清水淳一、石;高橋三太郎、プラスチック・ゴム;畑江俊明、未定;松本純一

北ガスサガティックショールーム
サッポロファクトリー2条南館3F
札幌市北2東4 ☎ 011-207-4040

ものけん

もの環境研究会

■研究会レポート

「北欧のかたちの現在」

講師/伊藤千織/ペーター・ヘルクビスト

11月17日(金)夜、札幌市内ワールドレストラン3Fにて 参加者約30人

主に伊藤さんによる、デンマーク王立アカデミー建築学校留学(1992~94)の時の学校の様子、デンマークの暮らし、街のしくみなどについてのホットなスライドレクチャー。タイミング良く来日中のペーターからは、スウェーデンを中心に北欧の暮らしやモノの質について、特に日本との違いといった点からコメントをもらった。伊藤さんにはコメントを依頼中。次号をおたのしみに。

こんどのものけんは新年会です

1月19日(金)18時半~20時半

会場/ファニチャーデザイン・ナック

札幌市南区澄川3条3丁目4-7

地下鉄南北線・澄川駅5分

☎ 011-832-7711

参加費/¥3,000(飲食代)、持ち込み大歓迎

※余興は各自近作のプレゼン。作品(現物・ボード・スライドなど)を持参のこと。できない人もご参加ください。参加希望の方は下記まで連絡を。

ものけん事務局/高橋三太郎・家具工房 SANTARO
〒002 札幌市北区拓北6-2-5-23
FAX.011-773-6676

3 / 7 (木) ~ 12 (火) 日本の木の椅子展

明治から現代までの108脚

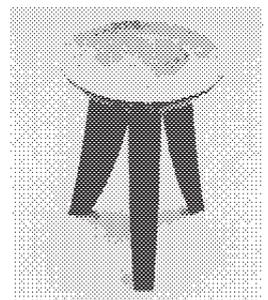
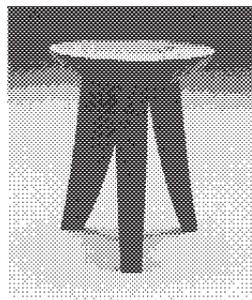
パークタワーホール

新宿区西新宿3-7-1

10:30~18:30 ※金・土は19:30まで

主催/リビングデザインセンター OZONE

(社)日本インテリアデザイナー協会



ISAMU NOGUCHI

ヒーリング・ワークショップへのお誘い

山崎愛子

昨年春から1シーズンに1度ずつのワークショップを京王プラザでやって居ります。今回の冬のワークで1サイクルの終わりです。今まで3時間ワークでしたが、もっとゆっくりやりたいと云う御要望もあって、今度は1日使ってゆっくりした時間の中で、始めての方でも身につくようにいねいにやってみたいと思います。仲間うちだけでやって居りますとあまり説明の必要が無いのですが、ヒーリングといってもどんな事をするのと御思いの方もいらっしゃると思いますので、少し自分のことも含めて書いてみます。

ヒーリング（癒し）を仕事にするようになって間もなく15年になります。あきっぽい私がよく続いていると不思議です。人様をヒーリングして元気になれるのを見るのは、もちろん嬉しいことですが、その事によって自分が変わって行くのが面白くてやめられないのだと思います。

気（エネルギー）は交流し合い決して一方通行ではありません。私のワークは、この誰でも持っている気を感じていただき、それを使うヒントをさしあげるのが目的です。その後は各人、各様、自由に発展させて下さい。

私も22年前、野口整体と出会い始めて「気」を実感しました。掌に気を集め自分や他者を癒す。人間だけでなく、猫や花や木や石とも交流できる、もちろん星とも太陽とも。「自分」と云うものがガッチリした体だけのものではなく、もっともっとひろがれる存在だと感じられる楽しさ。目に見える存在しか信じない頭人間だった私も、目に見えないけれど確実に存在する「気」の世界に魅せられて、ヒーリングの道を歩き始めました。

それまで永いこと薬づけだった私が、以来、薬とも病院とも縁がなくなりました。頑健になったと云うわけでは無く、いろいろな変化を病気と受けとめず「必要な体の働き」として受け容れるようになったと云う事でしょうか。事実変化の一山を越えると、確実に体はよくなっています。

その後、いろいろな出会いや気づきによって、今は私流のヒーリングになりましたが、エネルギーの流れを良くすると云う基本は変わりません。心と体はわかちがたいものですが、私の場合は、体の側面からのアプローチに重点を置いて居ります。体がリラックスすれば心も自然に楽になりますし、心のヒーリングの方法を御自分で探す土台になります。大変シンプルな方法で誰でも必ず出来ますから、どうぞリラックスして御出かけ下さい。

京王プラザはとてもエネルギーが高まりワークしやすい会場ですが今年はまだ手軽な会費で多くの方とワークする機会を持ちたいと思って居ります。

また、やりたい方が集まり会場を用意して下さいれば、出かけて参りますから、どうぞご連絡下さい。

山崎あいこ 1 Day ヒーリングワークショップ

とき 1月28日（日）13時～21時

ところ 東京新宿 京王プラザホテル南館10階1053室

会費～2万円 TEL.またはFAX.でお申し込みの上、下記口座に御振込下さい。

第一勧業銀行多摩桜ヶ丘支店 No.1410336

普通預金/山崎愛子口座

TEL.0463-76-8073 FAX.0463-76-8615

〒257 神奈川県秦野市北矢名 176-15



FREE YA NANA

「韓国・自然学校・カムサハムニダ」

三上敏視

昨年11月の末に初めて韓国へ行ってきた。関西気功協会が仲立ちとなって日本各地の気功愛好家が集まる「気脈の会」と言う集まりがあって、今回は韓国で行うことになったのだ。

なぜ韓国かというと、四年前に関西気功協会の招きで韓国から「自然学校」というグループのメンバーが来日し、交流の場で我々に強烈な印象を残してくれたのだが、そのうちの一人が前回の「気脈の会」に参加してくれたことから「次は韓国で」ということになった次第である。

最初の来日でどの様に印象的だったかと言うと、とにかく「人間らしい人たち」という感じだった。30代から50代の人たちだったが実によく歌い、踊る人たちで、徹底的に反日教育を受けてきた筈なのに、初めての日本ですぐに心を開いてくれた。中にはすぐ裸になる人もいて、その自然体に驚かされた。

「自然学校」というのは組織ではなく、可能な限り自然に合わせた生き方をしようと考えている人たちのネットワークで、もともとは福岡正信さんの「わら一本の革命」の韓国語訳を読んで影響を受けた人たちの集まりだそうだ。金芝河氏が進めているポスト西洋物質文明のハンサルリム運動とも重なる動きだが、より個人的でゆるやかな集まりで、まだ日本ほど欧米化していない韓国で伝統を元に自給自足による新しい生き方を模索し、実践しようとしている人たちである。気功をただの健康法としてとらえるのではなく、天人合一に生活レベルで近付くという「気功的生活」を目指す我々と意気投合しての付き合いとなった。

光州事件などの反体制運動にかかわった人も多く、ほとんどが大卒以上。大学院卒というメンバーも多いのだが、頭でっかちになることなく自然を中心とした瞑想的な生き方を目指している人たちで、ネットワークの主な活動はと言うと年に何回かメンバー誰かの家に集まり、飲み歌い、踊ると言う合宿をしているそうで、今回はその彼らのところへ行ってもその宴会合宿を体験しようと言うわけだ。キーワードは農と癒しと芸能。

場所は全羅南道和順郡。光州市の郊外の田舎で金哲さんの家と梁東春さんの家の二軒に一泊ずつしたのだが、金さんの家は山間の農村の一番奥で家は自分達で建てたという立派な住まい。梁さん

の家はもう少し開けたところの集落の古い農家を買ったもので、庭に小川が流れるぜいたくな環境。日本人が行くと懐かしくなるところだと聞いていたが、まさにそのとおり。いつもの合宿では100人くらい集まるそうだが、今回は時期的なこともあり自然学校の人30人くらい。それでも結構不便なところへ遠くからも駆けつけてくれた。ここで我々はマッコリを飲みながら語り、歌い、踊ったのだが、どうも我々日本人には共通に楽しめる歌がない。あちらは一人が歌い出すと、みんながそれに合わせて大合唱だ。即興の歌もある。そしてパンソリを歌う人もいれば伝統舞踊を披露する人もいるし、サムルノリのグループも駆けつけてくれて、河原の焚火を囲んで大騒ぎをした。ドラに太鼓の本当のドンチャン騒ぎである。韓国でもカラオケは浸透中だが、ここには本来の「共有する芸能」がまだ生きていて羨ましいかぎり。それにひきかえ我々が持ち込んだ楽器と言えばインドの太鼓にバイオリンにディジュリドゥーにインディアンフルートにといった具合。それはそれで今の日本人の遊び人の正直な姿なのだが、これではいかんとも思った。「私たちのいつもの合宿はこんなものではありません。もっと遊びます。」と言われ、「次までには何か伝統物を」と考えているこの正月。身近で一番自然学校に近い暮らしをしているのが永田さんちなので、今度は永田さんを誘って行こうかと思っている。

(みかみとしみ/MICABOX/札幌)

ねずみ年の今年ハイテク鼠のしっぽ(マウス)片手に!?

坂井正周

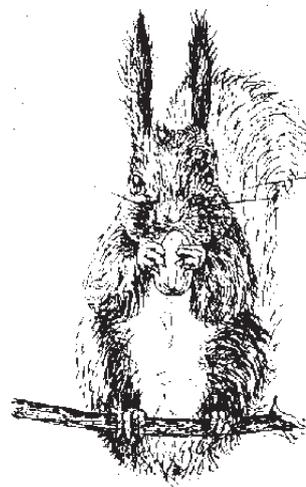
みなさんあけましておめでとうございます!
いつもだとお決まりの年末年始のパターンを過ごしていたが、昨年暮れから今年にかけては私を除いて家族が皆帰省して一人になったのをいい事に、今年の正月は誰にも気がねなくマックで遊べるとばかり仕事場にオーディオは持ち込むは、楽器は持ち込むはで、さながら仕事場を遊び場と化して、年が暮れるのも明けるのもここで過ごすというちょっと異常な新年の迎え方をしていました。さらに昨年暮れにスキャナー(画像取り込み装置)を入れたものだから、年賀状の制作に入れ込みすぎて結局31日に郵便局へ駆け込む羽目に...

スキャナーに付録で OCR というソフトがついてきたのですが、これが実に使い勝手がよすぎて病みつきになってしまいそうな程。どういうものかという、取り込みたい原稿或いは書籍の文章をスキャナーで一旦コンピューターに取り込み、それをテキストデータとしてコンピューターが文章を解読、テキストデータと化した文章は文字の大きさや書体の変更、削除、挿入等が思いのままとなる。つまりちょっと「パクリ」たい文章などを OCR で取り込んで、一部を入れ替えたりレイアウトを変えたりして、さももっともらしく企画書などに利用できる。というのはちょっと冗談として、早い話が様々な文章がコンピューターのデータとして、ディスクに保存してゆけるというのが一般的な見解 ... かな。いままでこの作業は、キーパンチャーやオペレーターの仕事として、いわゆる原稿打ち込みという全く非人間的な作業でもあった訳。勿論手書きの文章はよほど上手に書かないと、いくら OCR とて解読不可能となるのでこの作業がなくなる訳ではない。それに印刷文章の取り込みといっても 100% 完璧というわけでもなく、色々試してみた所大体 80% 位の出来といったところで、残りの 20% は人間様がモニター見ながら間違い探しをしなければならないのである（これが結構大変だったりして）。しかしやはり一からキーボードで打ち込む事を考えれば、実際やってみてもものすごい便利なものと感じる事はできた。年末押し迫った頃これのおかげで 10 ページに及ぶ計画主旨の書類が一晩で出来たのは事実。さらにオプションで英文字認識追加機能というのがあるので、近々購入して、さらに最近とみに安くなってきた自動翻訳ソフトなる横着者ソフトを使って、印刷物の英文を OCR で取り込んで、それをコンピューターに翻訳させてみようとも企んでいる。多分専門用語の翻訳など問題はあろうけど、それは承知の上でトライしてみるつもり。というのは、ある程度の取っ掛かりがあれば、少々手直しがあっても全くなにもないより遥かに作業の手助けになる、というのを感じるからである。話は変わるけど、昨年暮れも押し迫った 30 日夜アリゾナ在住の友人から電話があり、延々 2 時間近く話をした（その時間帯に当事務所に電話を入れた方からは大ヒソクものであったが）。話題はパーソナルコンピューターや（特に彼は一週間前に購入したばかり）インターネットについてであったが、例えば IBM とアップルについての認識の違いなどは日本とアメリカでは全く逆転している事、その裏にはどうも各メーカーのコンピューターのソフトに関する販売側の考え方の違いが影響している様で、結局いつもの事ながら誰のための便宜

上なのかという所にたどり着くのである。PC、つまり PERSONAL COMPUTER(個人の為のコンピューター) という概念を突き詰めてゆくと、日本では? マークが所々に現われてくるのである。ちなみに彼が一週間前に購入したというコンピューターであるが、どここのメーカーの機種かと問うた所、返ってきた答えはこの PC、つまりコンピューターを構成するパーツを、それぞれ自分に合ったものを数ある中から Choice (選択) して組み合わせ、自分なりに使い勝手のよいコンピューターにしたとの事。あえて言えば、インテル社の CPU を採用してどちらかという IBM の構成に近いかな ... と。ちなみに彼は特に今までコンピューターを専門に勉強してきたわけでもなく、誰もが(アメリカでは) 行う様に、自分の欲しい物を購入する前に色々本など読んで得た知識程度を持つ程度である。

いかにも「らしい」話だと感じたのは、コンピューターのみならず全ての分野に於いて、自分の行動に納得を求め、責任と権利、そして選択の自由を常に認識する国民性の違いである。こう考えると、この日本に於いて本当の意味での PERSONAL COMPUTER(個人の為のコンピューター) というのが存在するのか、とても疑問に思える。それは錯覚しているだけなのかもしれないのである。結局大多数の日本のコンピューターユーザーは、メーカーの言いなりにコントロールされている、という見解はあながち的外れではないのでは? と考えつつも、結局は目の前のアップルにすり寄ってしまうんだよね、これが。

(さかいまさちか/お茶の水設計工房アトリエ 808
/札幌)



SHIMIZU MUTSUMI

※今号各カットは当方到着の年賀状から借用いたしました。(編集者)

■ 1995年12月。のほほんとしていたら観測史上初とかいう大雪の日々。東になってかかってくるというのはこういうことか。いつもより一カ月以上早く一階の屋根と地面が雪でつながってしまった。へんてこりんな年の締めくくりにふさわしい出来事。いや進行中、なんだあこの正月早々の大雨は...!

同じ頃サンフランシスコでは、街路樹がバツタバツタとひっくり返る珍しい嵐、とK女史。

敬愛する“おじじ”（「ひまわり文庫」運営、滝上町の森の住人）は、道央・道北の今年の紅葉が極めて異常だと危惧していた。

・・・ハウチワカエダがなかなか紅葉しない。ある日やっと1cm角位の赤い斑点がついたと思ったら次の日には全部落葉してしまった。この木を含めて、緑のまま落葉したどの木の葉にも異様な黒いシミのようなものが目についた。この森だけの現象か、しかし、キノコを採りに毎朝入る山々も同じだった。カツラのあの燃えるような黄色はついに見る事が出来なかった。10月中旬南富良野へ行って東大演習林の人に会う機会があったので、この異常について早速聞いて見た。この人は40年間演習林に勤めていたのだが、言下に「異常落葉です」と言う。こんなことは40年間なかった事だし、更にその前50年間の演習林の記録にもない、と言う。[子どもの村通信／No.34より]

騒がしい事件もいろいろおこって、S君が言うように“世の中グチャグチャ”状態。食卓近くのちょっとは愛した（眠り薬の深夜映画を見るのに）TVが、あんまりわあわあいうのでついに追放・島流し。前の年末は（も）チェチェンが緊迫していた。にもかかわらずルーティンのドンチャン騒ぎ番組を流し続けるマスメディアに腹が立ったが、今年は何も言うことはない。もうたくさんだ。

■不況。我が建築業界はタイヘン。なのに、聴いたところでは自動車（RVとか、ちょっと背を低くし嗜好を変えたワンボックスなど）がガンガン売れているそうだ。町田ひろこさんが言うように、衣-食-住という順番の日本人の価値感がそこに現われていると言っていいと思う。しかし、そう言わなくとも、僕はRVもワンボックスもきらいだ。なんであんなにおもちゃにしちゃうんだろう。真摯に道具として用立てる考えからは着ぶくれしすぎた過剰デザイン...。そういや建築もおもちゃ性がうける（おもちゃ、好きだけどね）。みんなディズ

ニーランド。それは...今のヴァーチャルな暮らしむきに見合ったモノなのかも。

でもね、自動車の時代はもうおしまいだよ。終わってるのに続いているだけなのさ。オシマイ。で、準備をしなくっちゃね、とどめをさすのについてわけで（かな?）、『くるま問題&自転車トラスト研究会』が友人主宰で、昨秋札幌市内某所にてスタート。月一回程度の例会あり。興味をお持ちの方は当方までご連絡を。

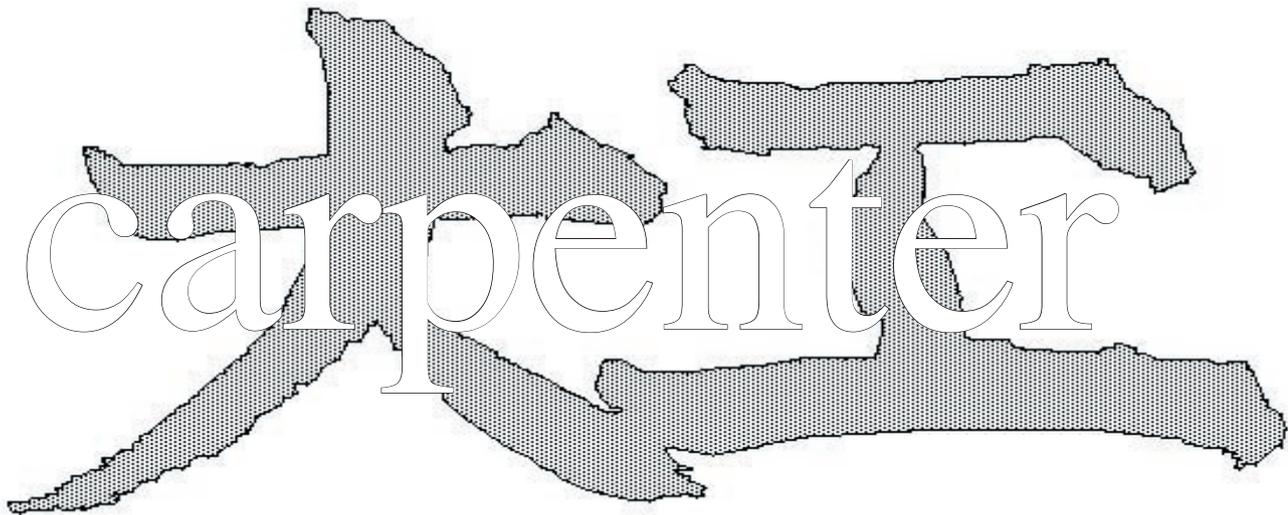
・・・現代では、自動車に託された願望は古びたものとなり、モータリゼーションへの倦怠感が広がり、これに対立するものも姿を現わしている。（中略）ところで、社会的に熱い関心を集めているのは、現在ではむしろパソコンであろう。私たちの祖父の世代にとっての自動車のエンジンにあたるものは、私たちの子供の世代にとってはパソコンのチップということになるのではなからうか。かくして、エンジンの音も高らかにカール・ベンツがマンハイムの路上に彼の車を走らせてからほぼ百年後の今日、車に対する熱狂の歴史に哀悼の辞を延べる時が近づいているように思われる。[自動車への愛／W・ザックス著／藤原書店刊]

アイスバーンで大渋滞のメインストリートにて「商売になんないよ。」とタクシーの運ちゃん。で「今、建築屋さんが大変って言ったって、景気がよくなりゃ一番にまたもうけるんでしょ？でえじょーぶだよ。」うん？う...ん。

■またS君、「...自分の生活を考えるしかないのでしょうか。」うん、それしかないと思う。もうだれもな一んにもやってくれないと思う。隣の国の金さんが言うように「自分の暮らしを変えることからしか、まわりに変化なんか生れない。」がきっと正しい。勝手に付け加えると、そこで自閉的にならずに各自がお山の大将をやることだと思う（いばるといのでなく）。自分に見合った適当な高さの山の上において、電波中継所のごとく情報をコントロールせんともくろむこと。古山博士、インターネット的なものって、そういう局面で道具としてはかなり役に立つだろうと思うんだけど、何か具体的なアイデアを持ってる？松川監督、星雲的なコミュニティのイメージというのをもうすこし話してもらえないだろうか？

■雪解けが見える頃になったら、またトンネル山開拓団の準備をしたいと思う。プランについては次号（3月）に叩き台を記すつもり。アイデアを持ちよるってことで、あなたもどう？

ことしもどうぞよろしく。



「でーく」という職業がどうやら我が国では絶滅しそうな成り行きです。住む人の生活と地域の環境を考える頭と、それを実現する腕をもっていた職人達は、住宅メーカーの言うがままに、見知らぬ人の住む家を組み立てるだけの労務者になりつつあるようです。

かつては棲みかを求める人と、汗を流し、腕を振るってそれを形にする人とが直接分かち合えた**信頼関係**が、我が国から消えようとしているらしいのです。それに代わるものは見知らぬ人が作ったテレビコマーシャルと、住宅メーカーの利益を代弁することで給料を得るセールスマンを通してでなければ手に入らないのです。

多分、今の日本の建設現場から若者の姿が無くなりつつあるのは、キタナイ、キケン、キツイ、といったことよりも、自分の仕事によって人を幸せにする、という実感の無い労働に、若者達は誇りも魅力も感じ無い所為ではないでしょうか。

手作り住宅に首を突っ込んで以来、20年ほどツーバイフォーの設計を行って来て、心配になるのはそうした日本の住宅の未来です。住宅産業の近代化と共に、かつて職人達が持っていた**物を作る喜び**が急速に色褪せて行くなかで、「洋風」でなく「洋式」の家造りには、確かな物を作る喜びが生き続けています。

これから家を持つとうとしているあなた、

住宅メーカーが飾りたてる商品ではなく、物を作る喜びを持ち続ける大工達と組んで本物を作ってみませんか。テレビのコマーシャル代もセールスマンの給料も必要ありません。あなたの考える「住むことの喜び」を直接設計者と大工に語ってください。

物造りに喜びを感じる若者達、「おら知らねーよ、監督に聞いてよ。」と空しい日々を送っている若き大工諸君、

一度アメリカンスタイルの家造りを体験してみると、きっと新しい発見があると思うよ。「腕」と同じように若者の「腕力」だって住まいを求める人々にとっては黄金の価値があることもきっと実感できるはずだ。

怒れる棟梁達、我が国の住宅メーカーが血道を

上げるパネル工法と違い、本来のツーバーフォーは全て現場で作られます。職人さえいればプレカット工場も必要ありません。いかがわしい「洋風住宅」に見切りを付けて、和室が無い住宅の注文が来たら本物の「洋式住宅」に取り組んでみませんか。

工務店の社長さん、大手住宅メーカーの機械

の一部になるのはもうやめにしませんか。物を作る喜びと誇りが無ければ、経営者の生きがいもありません。幸いアメリカの近代住宅産業には日本にみられる様な「自動車の作り方を真似して住宅を作ろう」とするバカな人達はいませんでした。各々の地域企業が合理化を積み重ねて、現在の高性能住宅を作り出しているのです。

「変わった家」に疲れた建築家の皆さん、

目先を変えることより、住宅の性能についてじっくり考えて見ませんか。コンクリート一重の壁で格好を付けた我が国のマンション群と対照的に、北米の住宅は90%以上が木造です。そのほうがローコストで高性能なのです。

お手伝いします

住宅設計／設計監理、システム設計、設計指導
建材輸入／建材探し、出荷先の手配、輸入業務
調査研究／いえづくり、まちづくり、ひとづくり

ASK Inc.

phone: 053-453-0693

fax: 053-458-2534